

大分大学教職大学院

教育実践研究報告会から教育実践研究フォーラムへの展開

(パネルディスカッション・テーマ:「学校の教育課題に取り組む教職大学院の学び」)

フォーラムの目的:

教職大学院における2年間の学修・研究の成果を、関係者等に発表し共有することで、広く大分県の学校に波及効果をもたらし、学校改善につなげる。また、この過程の中で紡ぎ出された課題について協議する場を設けることにより、教職大学院の使命や存在意義を問い直す。

フォーラムの内容:

第1部教育実践研究報告と第2部パネルディスカッションからなる。今回は「教職大学院での学び」に焦点化し、未だ十分浸透していない教職大学院での学びを見える化し、学修・研究の実践的意義を共有する構成とした。第1部と第2部は不可分の関係にあり、それを覚醒させる営みこそが教職大学院の使命であることを確認した。

日程・参加者等:

フォーラムへと展開した令和3年度から改善を加え、令和4年度は発展を試みた。対面とオンラインを併用し、令和5年2月22日(水)13:00~17:00に実施した。参加者は103名、うち対面77名、オンライン26名であった。

成果と課題:

平日午後の開催にも関わらず、多数のステイクホルダーの参加があった。参加者から「第1及び2部とも内容が新鮮で有意義だった」や「交流の時間を確保して欲しい」と両面の評価をいただいた。フォーラムとしては貴重な一里塚を築けたと評価している。今後はさらに洗練されたフォーラムとなるよう改善に努めたい。



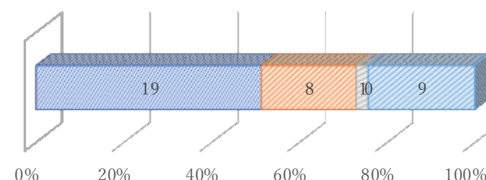
(左)第1部教育実践研究報告の様子。現職院生が実践研究の成果を発表している。アクション・リサーチが生み出す質問は中身が濃く、もっと多くの時間を要求する白熱した教室となった。

(右)第2部パネルディスカッションの様子。本学教員の教職大学院での学びの姿と意義をの説明ののち、フロアーから「さらなる連携に発展させてほしい」という、厳しくも温かい激励の言葉も寄せられた。



パネルディスカッション

- 興味深く開けた
- やや興味深く開けた
- あまり興味を引かれなかった
- 興味を引かれなかった
- その他



(左)第2部パネルディスカッションの満足度である。自由記述(改善に向けた意見)の内容を精査し反映させ、さらに充実した中身としたい。